

人新世を耕す

帯広畜産大学 筒木潔名誉教授

12

子孫から大地借用

平和の民「ホピ族」の口伝

前回は人間が土に接する場合、それを「お借り

している」という謙虚な気持ち「Humility」が不可欠という犬養道子さんの言葉を紹介した。

土を誰からお借りしているのかというと、人それぞれの世界観、宗教観、思想によって異なってくるが、ネイティブアメリカンのホピ族には次のような口伝が残っている。

「私たちのこの大地は

親や祖先から相続したものでなく、私たちの子孫から借りているものである」(ホピの箴言「んげん」教訓)。

私はドイツのハンブルク大学に博士研究員として留学していた頃、ハンブルク市の環境局発行の土地利用計画に関するパンフレットに書いてあったことからこのホピの口伝を知り、その後大学の講義の中でもこの言葉を

伝えてきた。生き物の存立基盤パンフレットの中では、ホピ族のこの口伝は以下のように解説されていた。

「私たちは自然物としての土壌、水、空気が地上における全ての生き物の存立基盤であることを知っている。したがって私たちはこれらの生存基盤をそこに存立する植物界や動物界とともに、注意深く保護し、育み、発展させていかななくてはならない(ハンブルク市環境局による解説)」

ホピ族はアメリカ合衆国アリゾナ州北部の6000km²(参考・茨城県の面積6097km²と同じくらい)の保留地に居住する人口約1万4000人の先住民である。「ホピ」とは彼らの言葉で「平和の民」という意味である。



ホピ族保留地の周辺 (Google mapより)

ホピ族の人々は他の部族との争いを好まず、ロッキー山脈内でテーブルマウンテンを形成する標高1370~1680mの乾燥した地域にたどり着いた。年間の降水量は150~250mmで、雪融け水と夏のわずかな雨に依存している。他の部族も後からやってきた白人たち

もこの土地に興味を示さなかったため、ホピ族は2000年近くもの年月この土地に留まることができた。彼らが耕す土地は有機物にも水分にも不足しており、利用にあたっては細心の注意が必要であったため、土地や土に対する謙虚な考え方が醸成されたものと推察される。

移動で地力低下補う

ホピ族は自給のために多種類の豆や4色のトウモロコシを栽培し、カボチャ、ウリ、アマランスその他多くの野菜も栽培している。トウモロコシは広い間隔で深く播種され、降水量が少ないにもかかわらず灌漑は行わず降雨と土壌水分のみに依